

令和2年度 第2回地方創生推進会議 要録

日 時：令和2年10月29日（木） 19：00～20：30

場 所：郡上市産業プラザ 3階 301会議室

出席者：（委員）井俣 潤、兼山吉枝、松山誠美、坂井能子、小池 敏、出崎善久、山内正文、
佐藤まり、稲葉光紀、鈴木 登

（事務局）河合市長公室付部長、佐藤課長、堀越

欠席者：青木副市長

傍聴者：なし

会議要録

（開始 19時00分）

1. 開会

（佐藤課長により開会）

2. あいさつ

（井俣会長より挨拶）

今年は雪も期待できそうなので、スノーリゾートが盛り上がることを期待したい。コロナの時期で大変だからこそ、できることをやっていくという経営者もいるので、そのような心構えで頑張っていきたい。本日もみなさまから様々なご意見をいただければと思う。

（河合室付部長より挨拶）

前回の地方創生推進会議で、社会情勢に変化のある中で総合戦略も見直しが必要という意見をいただいた。市としても各種計画について、コロナの視点も踏まえて見直しをしていくこととしている。事務局において、第2期総合戦略の改訂に向けてのスケジュールと、コロナ禍における課題を整理したので、説明をお聞きいただいたうえで皆さまからご意見を伺いたい。

3. 協議事項

（進行を井俣委員長に交代）

第2期総合戦略の改訂に向けて課題の抽出いただきたい。20時半を目途に終わるようにする。まずは事務局より資料の説明をお願いしたい。

（事務局③）

- ・ 事前に送付した資料について説明

(意見等)

(委員①)

事務局から説明いただいた資料をもとにして、それぞれのご意見をいただきたい。

(委員②)

戦略4-1 交通ネットワークの構築に関連して意見を述べさせていただく。自動車などで移動できない高齢者が利用できるタクシーチケットの事業が開始される。1人1万円分のタクシーチケットで福祉輸送も使用できるようだ。問い合わせがふる里めいほうにも来ていて、利用する人が増えるのではと期待しているが、親族等が近くにいない人が申請書をきちんと記載して、申請できるか不安がある。申請のサポートをできる仕組みが必要ではないか。問い合わせがあれば、ふるさと明宝がサポートに伺う体制は整えている。

(委員①)

タクシーチケットの詳細は？

(事務局①)

民間タクシー、福祉タクシー、福祉有償運送に利用できるタクシー利用券(1万円分)を申請によって交付し、高齢者の外出を支援しようとする制度である。

(委員③)

言論、報道の立場で意見を述べさせていただく。ICTの単語が出てくることが多いが、具体的な活用方法が見えないことが多い。ICTにまかせておけば何とかなるという部分もある。ケーブルテレビでのデータ量の増加でいうと、郡上市内ではデータ的にはすごく増えた実績はない。4、5月は30%増、他の自治体では1.5倍のところもある。想像していたよりは、増加幅は少ない。そして現在(10月)の情報量は横ばい。活用できていないから横ばいという見方もできる。

ICTは仕組みの一つであり、インターネット回線を引いていないと活用できない。だから導入しやすいような、インセンティブがあれば環境が整う一助になるのではないか。ICTの仕組みを活用できる土台としてのインターネット回線を設置する補助等があれば、より多くの人々がICTの仕組みを使えると思う。

(委員①)

ICTで具体的に何をどうするかについて具体的に考えていく必要がある。

(事務局②)

日々新しい言葉出てくる。DX(デジタルトランスフォーメーション)等。ITがより生活に浸透し、社会がより良くなる仕組み。具体性をもって施策を考えていく必要は認識している。

(委員①)

4、5月はあまり情報量が増えなかったということだが、児童、生徒はあまりインターネット等を使わなかったのだろうか。

(委員④)

端末が揃っていないこともあり、郡上市で遠隔授業を実施した学校はない。GIGA スクールの取組で次年度より1人1台が支給される予定ではあるが、各家庭でも同様に進めていくことは難しい。端末がある家庭、ない家庭など家庭ごとに事情が異なり、一律で活用を促すのは難しい。ハード面、ソフト面の両面を整備していく必要がある。関連して戦略3-4に人材の育成について述べさせていただく。教育でもICTを活用していく必要があるが、教員が使いこなす必要がある。何か不具合が起こった時には対応が難しいことがあり、対応するSE（システムエンジニア）に駐在してもらうなどが必要になってくる。教員自体が慣れていないので、使いこなせるように研修等が必要だと考える。

(委員①)

例えば、ケーブルテレビでそのような研修を担っていくことも考えられるのではないか。

(委員③)

それはビジネスチャンスではある。

(委員④)

コロナ禍で人の動きが少なくなる状況なので、ネット上で郡上の魅力が伝わるコンテンツがあればよいと思う。ネットの中で郡上の産品を購入できる、体験できるなどの仕組みがあればよいのでは。

(委員①)

今年度は修学旅行の内容が変更等されているが、郡上ではどうか。

(委員④)

修学旅行は日帰りで実施しており、今月で多くの学校が完了する。日帰りで県内の観光地を目的地として実施している。密にならないよう1台分は県から補助が出ている。急に感染症が蔓延してキャンセルが必要になったときの費用が負担になる。

高山市は感染者が出ていないこともあり目的地になっている。郡上市も同様に目的地になれば良いと思う。自然園やひるがの高原なども、修学旅行の目的地となっている。感染のない近場を売りにしていくのも一つの手段かと思う。

(委員⑤)

ICTを使いこなせる人が少ないなら、使いこなせる人を増やす人材育成が必要かと思う。

戦略4-3災害に強いまちづくりについて述べさせていただく。避難所開設の際に密を避けると、避難所が足りなくなる課題がある。避難場所が少ないなら、「自宅避難」の考えをと

っても良いのではないか。全員避難が必須ではなく、自宅避難の考えを推進しても良いと思う。地域全体の避難計画に加えて、自宅避難の計画を立てることも必要ではないかと考える。レッドゾーンは避難所への避難が必須かと思うが、イエローゾーンは自宅避難も手段の一つとしても良いと思う。

戦略4-4で運動不足が課題としてあげられているが、運動不足ならば、郡上は都会ではないので、みんなで歩くウォーキングを推奨するなどしてはどうか。

戦略4-5の地域医療で受診控えが課題として挙げられている。自分自身が病院に行きたくない理由は順番待ちが大きい。今は完全予約制で待ち時間も少なく済む状況。今だからこそ予約して病院にってもらい流れを作っても良いのではないか。また、大きい病院に最初に行くのではなく、かかりつけ医に診てもらったうえで紹介してもらい流れをつくってはどうか。

戦略5-2小さな拠点とネットワークについて、各地域(旧町村)に市民が集える、相談ができる場所、拠点を設置してはどうか。困りごとがあった時に、どんな話でも総合的にヒアリングしたうえで、関係課に紹介する仕組みができればと思う。

郡上では一人暮らしの高齢者が多い。雪が降ると一人暮らしは大変。冬の間だけ、集まって生活できるような集合住宅などあっても良いのでは。除雪も一か所で済むようになる。

(委員⑥)

前回開催時の7月は観光業が厳しい状況だった。地元の方は、他県ナンバーがあるとお風呂に入りに来ないこともあった。8、9月になって人が動き出した。他県から来ている人はそれぞれが意識高く感染防止対策をしていた。9月の4連休明けから、「ゆるみ」が出ているようでマスク着用していない方も散見された。

マリオットホテルオープン後、日本全国からお客さんが来ている。みなさんマスクを着用しているし、感染防止の意識は高い。積翠園はGo toトラベルの影響で満室が続いている。Go toトラベルについては手続きが難しいという課題はある。

そこで感じたことは、休日が分散していないので客も集中してしまう。この問題を改善するには、例えば、西日本、東日本で休みが違えば、サービス業の仕事も平準化されるし、旅行者も混んだ状況を避けられる。郡上モデルで市役所、公共施設の休みを分散することも考えられる。

民間で有休5日が義務化されているが、誰かにしわ寄せがいくのは確かです。全体でカバーしていく必要がある。労働関連の法律も一律ではなく業種ごとにあれば、柔軟に対応できるのではないかと考える。

ネットでの買い物が増えているが、基本は来て頂いてその土地の空気を味わっていただくということを大事にしたい。8割近くは近県の旅行者となっている。今後、開業したホテルの波及効果が郡上全体に広がっていけばよいと思う。

夜の飲食店の状況としては、みんな早く帰ることに慣れて、お店も早く閉まる場所が多い印象。八幡、白鳥は飲み歩きができる立地だが、大和の飲食店は点在している。点在しているお店にアクセスが良くなるよう、現状は夜間に稼働していない大和のふれあいバスを稼働させ、夜専用コースの設定など工夫できればと思う。飲食店はアルコール類が売れてこそ儲かる仕組みになっている。ランチが夜の利用につながる。お酒が飲める飲食店も元気にする

ことでまち全体も明るくなればと思っている。今は商工会でスタンプラリーの事業も実施している。公共交通の活用も含めて提案したい。

今、じゃらんでGo to トラベルを活用するとマリオットホテルは1人3,000円で泊まれる(素泊まり)。地元の人に来てもらうことを考えても良いと思っている。少しずつ改善しつつあるが、人がいないからお店を閉める、閉まっているからいけないという悪循環がある。この悪循環をなくす取組をしてきたい。

民間の交通事業者では、白鳥交通がホテルにも営業に来ているので協力しながらやっていきたい。今年度はスノーリゾートのシャトルバスが1日4便出る予定になっている。観光連盟で実証実験をしており、実証実験中は無料となっている。地元の高校生に声をかけて積極的に利用してもらうなども考えている。

(委員①)

白鳥の飲食店は人手が戻っている印象がある。スナックでは地元のお客が多い。

(事務局②)

白鳥は地元の固定客がかなり戻ってきているようだ。八幡のスナックは人の戻りは多くない。

(委員⑥)

Go to トラベルのクーポンを道の駅で使う人が多い。接地県で使えるので、岐阜県は7県の方が使用できるので有利。

(委員⑦)

東京の人との話をした際に岐阜にマリオットが多くオープンしていて、すごいという会話をした。岐阜にとってはチャンスかと思う。

(委員⑥)

マリオットとしては泊まり歩くことをして欲しいようだ。美濃加茂、郡上、荘川のラインを昇竜道のように移動することを想定している。今はキャンペーンで会員がポイントで泊まれる期間になっている。観光地のスポット巡りよりも田舎の生活、自然を感じられるニーズが高まっている。

(委員⑧)

戦略1-4の木質バイオマスについて述べさせていただく。チップなど木質の燃料をつくる工場は郡上にはない。収益試算をしたが、採算ラインに乗せることは難しいことがわかった。現状、明宝温泉では金山チップを利用しているが、含水率が高い課題がある。生産施設をつくる補助などがあればと思うが、需要がそこまでないことも確か。発電まで手を出すと更に莫大な投資が必要となるので現実的ではない。

米作りについては後継者問題が大きい。山中の田んぼでは生産効率が悪く儲からないため、米作りを続ける人がいなくなり、農地が放置されるという課題がある。施策をうたないと荒

廃が進んでしまう。

里山研究会として木を植える事業をしている。緑の募金事業で都市住民を募集して木を植えてもらうことをしてきたが、今年度はコロナで中止になってしまった。環境保全を売りにしている企業があり、新たな事業と一緒に進めているところである。ブラザーの森のミニチュア版のような事業で、カラマツを植え、森の手入れをレクチャーする。スキー場やキャンプ場との連携も考えており、「体験型」の観光の一つとして木が育って大きくなるまで10年は続けたい。

(委員⑨)

有効求人倍率は厳しい状況だが、自動車関連は持ち直してきている。家で過ごす人が多いと、おせち、農産物、家でのゲームなど一部需要が盛り返している面もある。

戦略3-4の人材育成について思うところを述べさせていただく。ICTの活用を指導する人材自体の育成自体は大切なことで進めていくべきだが、それ以外にも目を向けるべきこともあると思う。郡上東中からハローワーク見学の依頼があり、総合学習の一環で1年生がハローワーク含め合同庁舎を見学した。若い世代の育成には、ICTだけではなく、感受性豊かな時に「人と関わること」も大事にして継続していく必要があると考える。

(委員⑩)

産業振興、定住移住について述べさせていただく。郡上では感染者がいないこともあり、八幡などは賑わいを少し取り戻している。八幡に個人で来ている方の分析をして、次につなげることが必要ではないかと思う。昨日の移住者のニュースで最も人口が減ったのが東京で3万人減。移住数が増えたのが神奈川県、茨城県ということであった。地方の魅力が見直されているのが事実。郡上はこれまでも実績があるので、この機会に事業承継したい地元の人と移住者とを繋いでいくことが必要ではないか。

テレワークについて、金融機関は個人情報扱うため難しい面があるが、テレワークができる企業が郡上にも来てもらえればと思う。最近では淡路島に本社機能を移すパソナの例がある。プラス、マイナス両面あると思うが、人が動くことは大きな影響あるので郡上も魅力をうまくPRしていければ良いのではと思う。

(委員⑥)

事業承継について実際に進めているが、売り上げを伸ばし生活のできる収益を確保することが課題。移住者が事業承継する場合、生活が安定するまで3年ほど給料(生活費)を補填するなど支援があればと感じている。給料(生活)を確保するためには売り上げを1.5倍、2倍にしていく必要がある。承継したい人も、して欲しい人もいるが、生活できる収益を確保しつつ、事業を軌道に乗せることが難しい。

(委員⑦)

戦略1-3について述べさせていただく。トマト農家を営んでいるが、家食が増えたことでトマト自体の需要は増加した。和良の道の駅にも出品したところ、価格を安く設定したこともあり多く売れた。

伊那市ではオンラインツアー、オンラインセミナーが盛況なようだ。郡上の魅力をオンラインツアーで知ってもらい、来訪に繋げる仕組みを考えてはどうか。

10年以内に消滅するといわれていた限界集落の9割は存続している。郡上にも多くあるが、魅力発信と若者が戻ってこられる環境づくりに注力してほしい。就農支援金は割と手厚い状況にある。先日の新首相の所信表明演説の内容からも地方での更なる取組に加え、自分達でも地元の魅力を高め発信していくことを続けていくことが必要だと思っている。

(委員①)

戦略1-1について述べさせていただく。白鳥の油坂峠は明智光秀と関連があり、整備して福井県とも交流する計画がある。白鳥は実は国宝などが多い地域だが、観光業をする人があまりいない。地域で盛り上げていく必要があるということで、行政でも取組が少ない。今だからこそ観光資源を掘り起こし、生かす仕組みを作っていく必要があると思う。まずは観光協会が立ちあげて個人も追随していく流れを作ってはどうかと思う。

農業についても述べさせていただく。会社が厳しいなかで農業に目を向ける会社が多くなっている。オートメーション化された生産工場の検討などしているところもある。定年後農業をしている人なども巻き込みながら、稼げる仕組みを構築できれば良いのではないか。

最近観光スポットに行くのではなく、その土地ならではのもの、雰囲気を楽しむ観光スタイルが主流となっている。ランニング、犬の散歩、サイクリングなどをしている人も多い。

関係人口について述べさせていただく。子どもが市外に出ている人には、道の駅の買い物で割引がある、スポーツ施設が安く使えるなどがあると、帰省の回数が増えたり、友人を連れて来たりして、その友人も郡上を知るきっかけになるのではないか。

(事務局②)

それぞれの分野で貴重なご意見をいただき感謝したい。すぐに施策に生かせるような発言もいただけた。次回は今回いただいた意見に対応する市の事業(9月補正、新年度)も資料等に反映し共有させていただきたい。

また、総合戦略改訂に向けて今年度はあと2回会議を設定させていただきたい。例えば、基本目標1、2、3と4、5など2つに分けて集中的に議論をしていただきたいと考えている。

(委員①)

今年度にあと2回開催したいこと了承した。今後の開催予定はいかがか。

(事務局②)

今年度は1月、3月に予定をしている。資料を作成次第、ご案内をさせていただく。

(委員⑦)

遅くまで様々なご意見いただき感謝申し上げます。コロナ禍ではあるが、なにくそおかげさまの精神で乗り越えていきたい。次回も笑顔で会えるようにしたい。本日はお疲れ様でした。